



NO. 773  
 発行  
 13・1月31日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 関川 和彦  
 編集責任者  
 教 宣 部

# 地本旗開き

2013年1月19~20日  
 越後湯沢・全体で36名

国労新潟地本旗開きが1月19日  
 20日越後湯沢・東映ホテルで開  
 催されました。全体で36名・宿泊  
 では35名の組合員が出席しました。



今回、初めての試みで開催、二日間  
 の日程の中に、国労本部・エリア本部  
 のオレグ、そして国労大宮地区本部と  
 の組織経験交流会・労働講座と盛り  
 だくさんの企画内容でした。

13時30分に上石副委員長の開会あ  
 いさつでスタートしました。上石副委  
 員長は「地本で初めての開催になる。  
 企画が多くなつてしまった。学習し交  
 流を深めていきたい。大雪の中、出席  
 していただきありがとうございます。」  
 とありました。



## 国労本部オレグ 鈴木執行委員

### 組織拡大について

組織拡大行動の展開・全国統一  
 行動を全力で押し上げる（闘争指  
 令1号）具体的な提起（全国統一  
 行動で年間30名の拡大を達成して  
 いる。しかし、年間800名の退  
 職が始まっている。組織がある現  
 在で組織的に取り組んでいくこと。

## 初めて試み

### 関川委員長 あいさつ

地本主催での旗開きは初めての  
 の試みだ。新潟県支部・酒田支  
 部となったが全体で旗開きをや  
 ろうと意見が出され開催するこ  
 とになった。非常に盛りだくさん  
 の内容になった。組織拡大が  
 キンキンの課題となっている。  
 国労本部・鈴木執行委員、大宮地区本部大  
 宮車両所分会・橋本副分会長からの出席、  
 さらにエリア本部・矢部執行委員が出席し  
 ている

労働講座も企画、並行在来線問題につい  
 ても講演がある。盛りだくさんの内容になった。  
 最後まで集中して学習して欲しい。

衆議院選挙の結果について、自民党の圧  
 勝でがっかりした。しかし得票率では伸び  
 ていない。小選挙区で勝っているという状  
 況だ。

会社側の攻撃が矢継ぎ早になっている。  
 対抗軸をどこでつくっていくのか。どのよ  
 うに共同・共闘していくのか、国民的課題  
 としても重要だ。この1年そのきっかけに  
 して欲しい。全体から多くの意見を発言し  
 していただき有意義な会にしていきたい。



### 拡大は相手を変え 自分自身を変えていく

組織経験交流会（本部主催）  
 の意見から少人数で甘んじてい  
 るのではないか・昇給、昇格に差  
 別があること・あきらめが蔓延し  
 ている・国労加入で差別させられ  
 る・国労には加入しないだろう・  
 など意見が出されている。  
 しかし要求・労働条件改善の取  
 り組みで拡大している。拡大は相  
 手を変える、そして自分自身を変  
 えていくことから拡大へつながり  
 ていく。拡大を意識しながら取り  
 組んでいくこと。



拡大には特効薬が無い。職場の  
 環境、状況によってそれぞれ違っ  
 てる。

### 拡大は分会全体の 成果になっている

拡大は分会全体の成果になつて  
 いる。趣味・レクなどの関係。役  
 割分担を決めて取り組む。旅行に  
 行って国労加入させる。拡大行動  
 で仲間を支える。転勤先でも取り  
 組みを継続していく。

- ①各機関が統一行動を決めて進め  
 る。
- ②全組合員が参加できる体制を各  
 機関がつくる。
- ③地本が点検し全体で共有する。

職場を基礎にして運動を進め取  
 り組み他労組との違いを示してい  
 く。会社によって労働条件が違っ  
 ている。職場によって問題点が違っ  
 ている。

さまざまな課題、改善箇所が違  
 う。安全問題・ただ働き・偽装請  
 負、など取り組みを強化する。本  
 部のホームページを改善していく。



（裏面につづく）



組織対策費く拡大行動についての使用・取り扱い・地本によっては組織拡大行動にすべて活用できるようにする。他労組・組合員の問題解決は国労加入につながっていく道筋。

鈴木執行委員の組織拡大に関するオルグの後、橋本副分会長の組織拡大の報告がありました。全体からの質問・意見など出されました。そして矢部執行委員の労働協約についての説明があり、その後労働講座と移っていきました。



### みんなの意見・質問

●拡大の取り組みについて・全組合員の組合離れ。その状況から①全体が集まれる場をつくる②各職場・班について、他労組との共同行動の取り組みを進めていく③昇進・昇格試験を受験していく。国労は係職でない魅力が無い。

○拡大の取り組みについて、地本全体で進んでいない。西日本本部で拡大が進んでいるように感じる。組合員、それぞれ考え方が違う。息の長い取り組みにしていきたい。意識的に拡大をやっていく。

●拡大は重要な課題だ。最近では拡大されていない。組合員の高齢化によって取り組みが厳しくなってきた。

## 国労大宮地区本部 大宮車両所分会 橋本副分会長

平成14年大宮車両所へ配属。入社し研修時に貨物労組の加入用紙が配られ書かされた。2008年、貨物会社との一括和解以降に国労に加入した。大宮車両所は集団作業なので組合を気にしていたら仕事にならない。



日貨労では、分会大会を開催されていない。その時、国労の人たちとスポーツを通じて交流を深めた。一括和解の時、どちらが組合として、どうなのか判断し国労へ加入した。

職場は新人が配属されないで、社員の高齢化が進んでいる。新人配属が無いため、他の職場から転勤させられてくる。その人たちの悩み、問題点を聞いている。そこから拡大につなげていく。国労でも昇進試験に合格することをアピールしていく。



昇進試験で不合格となった。理由を聞いたら2次試験の面接で黒い下着を着ていたため不合格になった。国労は差別慣れになっているので国労加入の取り組みを進められない。他労組とは意見交換・共闘を呼びかけるところから進めていく。そこから拡大へつなげていく。

○組合員の年齢が高齢化してきている。組合会議が開催されていない。人生の総括がされていない。国労にいいだけでベストだと思っているのではない。ひとりひとりが総括できていないから国労加入を訴えるエネルギーが生まれてこない。分会・組合員相互間について人間的なつながりの中で、新しい人を仲間に入れるエネルギーが生まれてこない。成果が無くても相互的に理解できていないのではない。



●国鉄当時から比べると、現在JRになつて旧国鉄職員の組織率が65%7%になつている。他労組・組織の締め付けが無くなると国労に対しての対応が変わっていった。心配しないで行くんなことを話してみる。話し



てみると国労のことを嫌っていないのではないかと思う。国労は差別なれしている。それを逆にがんばっていくエネルギーにしていく。つながりは重要だ。年齢的にギャップを克服して深めていく。一歩前に出て行く攻めの取り組みを進めていく。

以上が、組織拡大に関しての全体の意見・質問でした。その後、エリア本部・矢部執行委員から労働協約について説明がありました。そして、労働講座として「並行在来線問題」について、元上越市会議員の杉本敏宏氏から講演がありました。その内容は、次の「国鉄新潟」で特集します。

第一日目は、17時半過ぎに終了しました。温泉に入ってくるのだけ後18時半から「旗開き」が開催されました。



次号も「旗開き」の特集をします。よろしくお祈りします。

